

月例研究会（2022年7月20日）

ソーシャル・ビジネスの現在

——「お笑いを通じた社会問題の解決」
をめざして

マヌー島岡

本報告は、「お笑いを通じた社会問題の解決」をめざして実践してきた我々の活動の報告である。「ソーシャル・ビジネス」を一言で要約すると「社会問題をビジネスで解決」と言われているが、ビジネスではなく「お笑い」や「ユーモア」でも解決できると考え、吉本興業所属の芸人が新しいソーシャル・ビジネスを提案する。

【主な活動内容】としては、日本に住む外国人向けに日本語教育として実施する「漫才で覚える日本語」、日本人を対象に言語教育として実施する「漫才で覚える英語、フランス語、スペイン語」、主に大学や高校で実施する「漫才で覚えるSDGs」、障害者による漫才大会を実施する「障害者施設での漫才作成講座」がある。

こうした活動を始めるに至る【経緯】は、次のとおりである。妻であり相方のシラちゃん（スイス人）は2012年、結婚を機に日本に来日し、日本語学校に約3年間通ったものの、文法中心の授業に限界を感じていた。その後、2018年に吉本興業株式会社が運営する芸人養成所NSC 東京校に夫婦そろって入所した。NSCで

は台本なしの喋る訓練を経験した。この経験を基に「漫才で覚える日本語教育」という独自の日本語教育方法を考案し、2019年から日本全国にある大学や日本語学校で採用されるようになる。具体的には、2019年から東京にある日本語学校や東京学芸大学にて実験的に「漫才で覚える日本語」を実践し、授業の内容を完成させた。

日常生活にある言い間違えをテーマに日本語初級者の外国人でも簡単な漫才を作成することができるので2021年3月に日本語教育関係者から「漫才で覚える日本語」を障害者就労支援施設でも実施したいとの要望を受け、2021年5月から横浜市にある就労支援施設で「漫才作成講座」を定期的に行っている。

我々の活動の【目的】は、以下のとおりである。外国人差別や障害者に対する差別を軽減できる可能性があるだろう。例えば外国人が日本語で漫才を披露したら、障害のある方が人前で漫才を披露したら、どうだろうか。「漫才」には笑いがあり見ている人の印象が変わり相互理解を促進できるかもしれない。同時に日本人と外国人でコンビを組んで漫才を作成した場合、日本人が相方の外国人に対して日本語や日本語文化を教えながら漫才を作成するので国際交流という意味合いが出てくるだろう。障害者による漫才の場合、漫才を通じて喋り方の練習となりコミュニケーション能力の向上にも繋がると言われている。特に障害者を雇用している企業にその漫才を披露している様子を見ていただき雇用促進にも貢献できるのではないだろうか。

（まぬーしまおか 吉本興業所属フランボネ）